

# たとえベネズエラ侵攻なくとも、 トランプの行動はそれ以上に悪い

軍事的選択肢が依然としてテーブルにある一方で、米国はベネズエラ国民に対する経済的窒息を加速させています。

ミシェル・エルナー

ベネズエラアナリシス 2025年12月26日

[Trump Might Not Invade Venezuela Yet, but What He Is Doing Is Worse - Venezuelananalysis](#)

今ワシントンで最も大きな問いは、ドナルド・トランプがベネズエラに侵攻するかどうかです。だが現実は、もっと静かで、はるかに危険なものです。彼は侵攻しないかもしれません、それはベネズエラ人の命を気にかけているからではなく、国内でより安価で政治的リスクが少なく、そしてはるかに破壊的な戦略を見つけたからです。それが経済戦争です。

ベネズエラはすでに何年もの経済戦争を乗り越えてきました。経済を締め付けるため米国は20年にわたって大規模な制裁をかけてきましたが、同国は適応の方法を見つけ出しました。石油は代替市場を通過し、コミュニティは生存戦略を発展させてきました。人々は創造性と回復力をもって物資不足や困難に耐えてきました。この持続力こそがトランプ政権が打ち砕こうとしているものです。

世論の反発や議会の監視を招く軍事侵攻を仕掛ける代わりに、トランプはより陰湿なもの、すなわち完全な経済的窒息にさらに強力に取り組んでいます。ベネ

ズエラの石油輸出に対する制限を強化することで、トランプ政権は意図的に国を全面的な人道的崩壊へと押しやっています。

ここ数か月、カリブ海での米国の行動、特にベネズエラに関連するタンカーへの嫌がらせや阻止は、金融の圧力から違法な海上武力行使への転換を示しています。これらの作戦は、ベネズエラが公海を通じて自国の資源を移動させる能力をますます標的にしています。タンカーは遅延、押収、二次制裁の脅威、あるいは強制的な経路変更を強いられたりしています。目的は絞殺です。

これは国際法上違法です。

公海上での航行の自由は、国際海事法の基盤であり、国連海洋法条約に明記されています。国連安全保障理事会の権限なしに民間商船を一方的に差し止めることは、主権平等と不干渉の原則に違反します。米国による制裁の域外執行、ベネズエラとの合法的な貿易を行う第三国や民間行為者を罰することには法的根拠がありません。それは単純明快に強制です。さらに重要なのは、集団的な懲罰をいとしていることです。

トランプ政権は、食料輸入、医薬品、電力、公共サービスの資金となる石油の輸出を阻止することで、大量の貧困状況を意図的に作り出しているのです。国際人道法の下では、政治的目的を達成する手段として民間人を標的にするのは集団刑罰として禁止されています。このまま続ければ、空っぽの棚、栄養失調の子どもたち、病院の過密状態、食べ物を探し回る人々など、恐ろしい光景が現れるでしょう。その光景は、包囲と飢餓が戦争の武器として常態化されたガザの人々を彷彿とさせます。

アメリカの行動は間違いなく何百万人ものベネズエラ人を国外へ連れさせるでしょう。彼らは家族にとって安全で経済的機会と安全に満ちていると言われるアメリカへ渡ろうとするでしょう。しかしトランプは米国の国境を封鎖し、庇護の道を断ち、移民を犯罪化しています。人々が飢え、経済が崩壊し、日常生活が生きられないほどになると、人々は移動します。ベネズエラ人のアメリカ入国を阻止し、彼らが国内で生き延びるための条件を体系的に破壊することは、コロンビア、ブラジル、チリのような隣国がワシントンの決定による人的犠牲を受け入

れることを強いられることを意味します。これが、帝国が被害を外注する方法です。しかし、これらの国々は独自の経済問題を抱えており、ベネズエラ人の大量避難は地域全体、を不安定化させるでしょう。

ベネズエラは試金石です。いま精緻化されているのは、正式な戦争なしの経済的包囲、封鎖宣言なしの海上強制、爆弾なしの飢餓 の設計図です。ワシントンの政治的・経済的要求に従わない国は、注意を払うべきです。これが 21 世紀の政権交代の地図となるでしょう。

こうすればトランプは、米議会に「ベネズエラと戦争を始める」わけではないと安心させることができます。彼は承認を求める必要もありません。経済的締め付けは、軍事介入の即時的な政治的コストを伴わず、ゆっくりとした広範な破壊をもたらします。遺体袋がアメリカの地に戻ることも、徴兵もなく、爆撃作戦がテレビ中継されることもありません。ただ他の場所の生命が徐々に侵食されいくだけです。

トランプの計算は非常に単純です。ベネズエラ国民を惨めな状態にして、立ち上がりさせマドゥロを打倒させることです。それは 60 年間にわたるアメリカのキューバ政策の背後にある同じ計算でしが、それは失敗しています。経済的締め付けによって民主主義はもたらせません。苦しみをもたらします。たとえ偶然にも政府を倒すことに成功したとしても、その結果は自由ではなく混乱、場合によっては数十年にわたり国や地域を壊滅させる長期内戦になる可能性が高いのです。

ベネズエラの人々はクリスマスと新年を祝い、丁寧に包まれたハラカス、パン・デ・ハモンのスライス、ドゥルセ・デ・レチョサを食べます。彼らは語り合い、ガイタに合わせて踊り、ポンチエ・クレマで乾杯します。

しかし、もしこの経済的包囲が続き、ベネズエラの石油が完全に断たれ、国が自給自足の手段を奪われ、爆弾がもはや政治的に意味のないことを飢えで終わらさせることができれば、このクリスマスは、ベネズエラ人が普通の生活に近い形で祝えた最後のクリスマスの一つとして記憶されるかもしれません。少なくとも近い将来には。

世論調査では、アメリカの約70%の人々がベネズエラへの軍事介入に反対していることが一貫して示されています。戦争はその本質として認識されている：暴力的で破壊的で、容認できないものだ。しかし制裁は異なる扱いを受けます。多くの人は、それが無害な代替手段であり、流血せずに「圧力をかける」手段だと信じています。

その前提是危険なほど間違っています。医学雑誌『ランセット』の包括的な研究によると、制裁は武力衝突に匹敵するレベルで死亡率を増加させ、まず子どもや高齢者が対象になります。制裁は民間人の被害を避けるものではなく、体系的にそれを生み出します。

もし私たちが戦争が殺人だから反対するなら、同じことをする制裁にも反対しなければなりません。ただし、より静かに、よりゆっくりと、そしてはるかに少ない説明責任で行われています。もし私たちが爆弾や侵略に対するのと同じ緊急性で経済戦争に対抗しなければ、制裁は好ましい武器であり続けるでしょう。それは政治的には都合が良くても、同じくらい致命的です。

ミシェル・エルナーはCODEPINKのラテンアメリカキャンペーンコーディネーターです。ベネズエラ生まれで、パリ・ソルボンヌ大学(パリIV)で言語学と国際関係の学士号を取得しています。彼女の研究は米国の外交政策、経済制裁、ラテンアメリカおよびカリブ海地域への連帯に焦点を当てています。